

入院費補助、スタッフ給与の他、大人の識字教育、衛生、農業技術指導にかかわる経費も含まれております。
(受益者は8つのシチオ合計1, 200~1, 300人)

正会員収入は現在28名(32口)で月額64,000円です。健全な収支にはあと20~30名の方のご協力を得たいところですが、月額2,000円の会費負担に応じて下さる方は少なく、去る7月25日、「週刊金曜日」(編集委員・筑紫哲也他)の「こんなことしてます」欄で紹介させて頂きましたところ、問い合わせは1件のみでした。

ここで提案させていただきたいのは正会員会費の減額です。一口1,000円とし、現正会員の皆様は、自動的に2口払っていただいていると云うことでいかがでしょうか。したがって、現正会員の皆様が次回会費納入から、一口に変更されることもできるという点を含めての提案です。

会費収入増加を目指しながら結果的に減少もあり得ますが、ミンダナオ先住民の状況を知っていただくと云う意図も会活動に含まれていますから、少しずつでも多くの人に支えていただく、という形を取りたいと思っています。

奨学金支援についてはp.6の「新入会員情報」でもお分かりのように、70名近くの方がご協力下さっています。CMBはパッションリスト会という修道会による先住民ピラーン族の支援組織で、修道会が学校の施設維持、教師の給与の大部分を負担していますが、一方で住民にも授業料の形で子供の教育費をできるだけ負担するよう指導してきました。しかし、現実には、30ペソ(約150円)が払えず卵や芋などを生徒が持参、教師が現金化する例も多いと聞いています。HANDSによる小学生の奨学金支援は、このような子供たちの授業料を肩代わりするだけでなく、公立学校の約3分の1という極端に低い教師の給与補填も目的としています。サムラングでも初め給与条件の悪さに来てくれる教師がいなくて困ったそうです。

現地の状況を考えますと、奨学金の額につきましても、いずれ役員会が発足しましたらそこで検討致しまして、皆様に来年度以降の多少の負担増を含めて提案をさせていただきたいと思っております。その折にはまたご意見お寄せ下さい。

以前からお願いしておりますように、広く会員の皆様のご意見を伺って会の運営をして参りたいと思っておりますので、以上の3点以外についてもご意見ご助言お寄せ頂ければ幸いです。

☆☆☆ サ ム ラ ン グ だ よ り ☆☆☆

◇ “KLAWIL GUTNGA” (センター・オブ・ライフ) 報告 — 今クリニックでは —

クリニックが出来る前から、ジェネラルサントスの教会の青年たちとともにサムラングを定期的に訪れて、住民の医療や法律相談等に当たっていたセシールが家庭の事情で6月中旬サムラングを去りました。

「大変知的で仕事の出来る女性」とノノイ神父に信頼され、クリニックに寝泊まりして、センターの開設準備及びその後の運営に当たっていた彼女でした。今年5月末の私たちの訪問時、トゥモロックに向かう坂道で休憩した時、「どうして私はここにいるのかしら」とか、「あなたはどのようにピラーンのために?」と、話しかけてきた彼女のかなり憔悴した顔が思い出されます。

ソーシャルワーカーとして一貫して弱者のために働いてきたと云う彼女も、早く山から帰ってきてと懇願する1年生の養女の事で悩んでいたようです。

「センターやサムラングの住民にとって大変な痛手だが、すでにガルシア医師によって訓練を受けたピラーン族のヘルスワーカー・リディア・オデイや、通常はジェネラルサントスの先住民事務局にいて、週1回サムラングに来てくれる看護婦のマルリル・サントスグルボン、それにコミュニティー・リーダーのルピナ・サンが頑張っている。住民もセンター運営に積極的に参加、クリニックも変わりなく機能している」との報告が間もなく神父から入りほっとしました。

この地域では低地人(ビサヤ人、クリスチャン・フィリピンとも呼ばれる)はピラーン族から土地を奪ったものの代名詞のようになっていますが、同時に、教師や医療従事者としてボランティア精神に支えられて、家族と離れて山で頑張っています。しかし、やはりピラーン族自身が教育を受け、コミュニティーに戻ってみずからの部族のために働く事が今後一層求められると実感した「セシール、サムラングを去る」のニ